

令和5年度 香川県 英語教育改善プラン

目標

伝えたいことを伝える力を有し、グローバル社会で活躍できる人材の育成

1. 現状

R4年度英語教育実施状況調査より
()内：R3年度

改善が進んだ点

- ①「話すこと（発表／やり取り）」を評価するためのパフォーマンステストを実施した学校の割合（第5・6学年）
99.0%（97.6%）
- ②小中連携したカリキュラムや学習到達目標などの設定をしている割合
53.1%（50.8%）

未だ改善が必要な点

- ①「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標を公表している割合
16.7%（7.3%）
- ②児童が1人1台端末を活用した授業（全ての授業のうち50%以上）の割合
36.0%（-）※R4新設

2. 分析

- ①授業における言語活動時間の割合も93%と高いことから、言語活動を通して練習したことを単元末に評価するという授業システムが定着している。
- ②各中学校に、校区内の小学校と連動した「小中連携型CAN-DOリスト」を提出するよう依頼し、教科書ごとのリスト例を示した。

- ①設定62%、達成状況の把握50%に対して、公表が大幅に低いことから、単元の目標を生徒と共有する意義や方法についての共通理解が不十分である。
- ②ICT機器の活用に関する研修の機会が減少し、好事例を紹介したり情報交換を行う場を確保することができなかった。

3. 施策・事業

①小学校英語スキルアップ事業

パフォーマンステストの実践事例を共有し、評価の在り方についてのワークショップを行う。指導者から具体的な指導・助言をもらい、目標と指導と評価の一体化をめざして授業改善を図る。

②「小中連携型CAN-DOリスト」作成の推進

小・中学校教員がCAN-DOリストを持ち寄り、情報交換を行う機会を設定する。県教育委員会は、CAN-DOリストの例を修正して示し、実際に活用されるリストの作成を推進する。

①外国語推進モデル校事業

モデル校における「CAN-DOリスト」を活用した実践事例を研修や県教育委員会のホームページ上で紹介し、生徒と共有する価値や指導効果について普及を図る。

②小学校英語スキルアップ事業

優れた指導技術をもつ教員の公開授業や大学教授等を講師としたワークショップを実施し、ICTを活用した言語活動の実践例について学ぶ機会を確保する。

令和 5 年度 香川県 英語教育改善プラン

目標

即興的な問答ができる発信力を有し、グローバル社会で活躍できる人材の育成

1. 現状

R4年度英語教育実施状況調査より
() 内：R3年度

改善が進んだ点

①「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標を公表している割合

65.6% (23.1%)

②小中連携したカリキュラムや学習到達目標などの設定をしている割合

53.1% (50.8%)

未だ改善が必要な点

①CEFR A1レベル相当以上の英語力を有すると思われる生徒の割合 (中3生)

36.0% (37.4%)

②生徒が1人1台端末を活用した授業 (全ての授業のうち50%以上) の割合

28.1% (－) ※R4新設

2. 分析

①指導主事会等の各種研修や学校訪問の際に、「公表」の具体的な方法を示し、目標を生徒と共有することの価値や共有した実践事例等を紹介した。

②各中学校に、校区内の小学校と連動した「小中連携型CAN-DOリスト」を提出するよう依頼し、教科書ごとのリスト例を示した。

①授業における言語活動の割合やパフォーマンステストを積極的に実施している割合は全国平均と同等であることから、内容の改善や指導と評価の一体化を図る必要がある。

②ICT機器の活用に関する研修の機会が減少し、好事例を紹介したり情報交換を行う場を確保することができなかった。

3. 施策・事業

①外国語推進モデル校事業

モデル校における「CAN-DOリスト」を活用した実践事例を研修や県教育委員会のホームページ上で紹介し、設定・公表・活用についての理解促進や指導効果の普及を図る。

②「小中連携型CAN-DOリスト」作成の推進

小・中学校教員がCAN-DOリストを持ち寄り、情報交換を行う機会を設定する。県教育委員会は、CAN-DOリストの例を修正して示し、実際に活用されるリストの作成を推進する。

①1人1台端末を活用した実証事業

英会話機能を有したAIアプリ等を協力校(800人程度)の授業に導入し、その効果を検証する。生徒のスピーキング力を測る効果的なパフォーマンステストの在り方についても研究し、成果の普及に努める。

②中学校英語スキルアップ事業

優れた指導技術をもつ教員の公開授業や大学教授等を講師としたワークショップを実施し、ICTを活用したパフォーマンステストや言語活動の実践例について学ぶ機会を確保する。

令和5年度 香川県 英語教育改善プラン

目標

議論・討論できる発信力を有し、グローバル社会で活躍できる人材の育成

1. 現状

改善が進んだ点

- ①「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標を公表している割合 ()内は前年度R3
45.9% (24.0%)
- ②パフォーマンステストの実施
スピーキング・ライティング両方
46.1%(33.8%)R4全国48.6%
スピーキングの割合
56.0%(44.9%)
ライティングの割合
81.3%(73.7%)

未だ改善が必要な点

- ①CEFR A2レベル相当以上の英語力を有すると思われる生徒の割合 (高3生)
40.2% (40.8%)
- ②授業における生徒の英語による言語活動の割合
47.5% (53.8%)

2. 分析

- ①各学校にCAN-DOリストのアップデート及び提出を依頼するため、作成率は100%であるが、その後の活用、公表には課題がある。
- ②英語科主任会、学校訪問等で、パフォーマンステストの実施の重要性を確認、共有した。また、上記のCAN-DOリスト提出時に、指導と評価の年間計画を開講科目ごとに作成、評価項目にパフォーマンステストを明記するように依頼し、パフォーマンステストの見える化を図ることで、実施率は向上した。

- ①英語検定などの外部試験の受験者数の大幅な減少が要因の一部であると考えられる。それに伴い、教員裁量の数は大幅に増えたが、全体としては減少している。
- ②パフォーマンステストの実施率は前年度より上がっているものの、生徒の英語による言語活動の割合が下がっている。パフォーマンステストの準備、指導段階から生徒に積極的に英語を使用する機会を増やす必要がある。

3. 施策・事業

- ①ALT活用周知会・英語科主任会
毎年5月に実施される上記の会において、ALTを活用し、スピーキングのパフォーマンステストを実施する等、活用の好事例を紹介し、共有する。また、英語を使った言語活動を通して、英語を学ぶことの重要性の共通理解を図る。
- ②教育課程運営改善研究会において、実施（実施予定）のパフォーマンステストの取組の提出を求め、当日は、各学校からの参加者に対して、好事例の紹介、各学校が持ち寄ったパフォーマンステストの資料を基にグループ協議を行い、パフォーマンステストの実施を推進する。
- ①高校英語指導力向上事業（国費申請）
大学等の助言者を招き、研修をすることで、英語教員全体の指導力の向上の機会を確保する。
この研修では、パフォーマンステストを録画した授業の視聴や言語活動の好事例について、グループ協議を行い、共有し、各学校に持ち帰り、英語科内で共有、授業実践へとつなげる。